

# 履修科目一覧表

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
基礎科目	◇	基礎数学	頼實 一全	建築で用いる数学の習熟を計るため。四則法則・三角関数・方程式・式の変形・電卓の使い方を学ぶ。	2	2				30
	◆	デザインⅠ	妹尾 真未	西洋美術史の概要を把握する。二次元、平面への表現にとって、基本的な能力を養う。	2	4				60
	◆	デザインⅡ	妹尾 真未	三次元、立体への表現方法を探る。建築のプレゼンテーションに必要なレイアウト、着彩、パース等の技術を習得する。	2		4			60
	◆	デッサン	池田有美江	建築要素の中で美術一般、特にデッサンおよびデザインがどのような役割を占めているかを実習を通して学ぶとともに、立体を表現する技法を習得する。	1	2				30
	◇	キャリアマナー	長澤さおり	「職業人として気持ちの良い環境創りができる力＝キャリアマナー」を学び人生の基盤をつくります。また、就職面接で、「一緒に働きたい」と思われるマナーや立ち居振る舞いを身につけていきます。	2	2				30
	◇	RS 特別講義	未定	「建築」「動物」の分野を超えた幅広い学外有識者を招聘し、様々な知識教養を身につけ、幅広い視野を養うことを目的とする。	2				2	30
専門科目	◇	建築計画Ⅰ	高尾 光俊	良い建築を創造したり、また改善（リファイン）するためには、建築空間と人間との関係を学ぶことが必要不可欠となる。そのための理念やプロセス、計画手法等について幅広い知識を学ぶ。	2	2				30
	◇	建築計画Ⅱ	高尾 光俊	各種建築物（集合住宅、学校、幼稚園、保育園、事務室、商業施設、図書館、医療施設、宿泊施設、その他）の種別毎にその計画手法を学ぶと共に、共通項としての計画倫理も同時に学ぶ。	2		2			30
	◇	設計特論	湯浅 康生	建築を学ぶ上で必要な3つの素養（①スケール感 ②立体把握 ③スケッチ）を身につけ、建築計画の基礎となる空間の見え方や考え方について学ぶ。	2		2			30
	◇	環境工学Ⅰ	高木 宣徳	建築環境工学の基礎について講義する。太陽、光、色彩、換気的环境について学ぶ。	2	2				30
	◇	環境工学Ⅱ	高木 宣徳	建築環境工学の基礎について習得する。熱、空気環境、音環境について学ぶ。	2		2			30
	◇	建築設備Ⅰ	山口 裕達	建築設備の基礎について講義する。給排水衛生設備、電気設備について行う。	2	2				30
	◇	建築設備Ⅱ	山口 裕達	建築設備の基礎について講義する。空気調和設備について行う。	2		2			30
	◇	建築史	赤城 忠男	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。	2	2				30
	◇	インテリアデザイン	土師 純子	快適な生活環境を造るために、空間を内からとらえ、人間の心理や行動あるいは、スケールで捉えた空間・材料などの知識を講義する。	2			2		30
	◇	建築法規Ⅰ	湯浅 康生	建築物を造り、そしてこれを維持していく上の秩序として、社会的に要求されるものが建築法規である。ここでは、建築基準法を中心とした法体系の概念、総則規定、単体規定について学ぶ。	2		2			30
	◇	建築法規Ⅱ	湯浅 康生	建築法規Ⅰに続いて、建築基準法・同施行令の集団規定ならびに関係法令（建築士法、建設業法、都市計画法、ハートビル法など）について学ぶ。	2			2		30
	◇	総論計画	赤城 忠男	計画関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行い、問題を理解する。	2				2	30
	◇	総論法規	湯浅 康生	建築法規の総括としての復習と、併せて建築士受験対策として問題集を中心とした演習を通じてより深い知識を習得する。	2				2	30
	構造系	◇	基礎・構造	石井さやか	建物の実例に当たり、身近な材料を使って実験しながら、構造のおもしろさと大切さを知ってもらうこと。ニュートン力学の基礎的な理解を踏まえ、構造力学のはじまりを解説する。	2	2			
◇		一般構造Ⅰ	赤城 忠男	建築全般についての初歩的知識、また深い知識を得る前に、浅く広い知識を技術全体のバランスを取りながら身に付ける。	2	2				30
◇		一般構造Ⅱ	赤城 忠男	建築物を構成する部位別の構法（機能、名称、納まり等）及び、それらに使用する材料についての基礎知識を習得する。	2		2			30
◇		構造力学Ⅰ	高木 宣徳	建築構造力学の基本的な知識（静定構造物）の理解と解析力の育成。	4		4			60

	授業形態	教科科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	構造系	◇ 構造力学Ⅱ	高木 宣徳	構造部材応力度、断面の性質、変形を主に、不静定構造の解法を習得する。	4			4		60
		◇ 構造設計Ⅰ	熊城 正樹	鉄筋コンクリート造構造物の基本的な知識と、構造設計が可能な能力の習得。	2				2	30
		◇ 構造設計Ⅱ	熊城 正樹	自然界から受ける外力と、自重・積載荷重に耐える鋼材を用いた骨組みの設計計算を理解する。	2				2	30
		◇ 木構造Ⅰ	石井さやか	木造建築の構造、構法に関する基本的な事項について、木造住宅を中心に講義する。	2		2			30
		◇ 木構造Ⅱ	島村 鐵二	木構造Ⅰに続いて、木造住宅を中心に講義する。	2			2		30
		◇ 建築材料	高木 宣徳	建築に使用される材料はきわめて範囲が広い、ここでは建築構造の基材となる木材、鋼材、コンクリートについて講義する。	2	2				30
		◆ 材料実験	高木 宣徳	建築材料の中で、代表的なもの（木材、セメント、コンクリート、鋼材）を取り上げ、その力学的性質、化学的性質などを、実験を通して体験する。また、それぞれの材料がもつ特性を相互に比較検討し、より理解を深める。	1	2				30
		◇ 総論構造	植田 晋也	構造関係の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。理解のきっかけをつかめず、興味を失いがちな生徒のために、基礎構造で扱った材料に立ち戻って説明する。	2				2	30
	施工系	◇ 建築施工Ⅰ	中山 竜宏	建築工事の内、請負契約、見積りに始まり工程計画、仮設計画、そして最も重要な工種の一つである鉄筋コンクリート系工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2		2			30
		◇ 建築施工Ⅱ	中山 竜宏	建築工事の内、鉄筋コンクリート系工事、鉄骨系工事、内外装工事に関して教科書、ビデオによる講義、現場見学等を通じて知識を習得していく。	2			2		30
		◇ 建築積算Ⅰ	倉西 透	建築物のライフサイクルコストを総合的に把握する上で、費用・価格・コスト管理は重要要素の一つであり、その役割を担うのが積算である。ここでは、数量積算に主体を置き講義する。	2			2		30
		◇ 建築積算Ⅱ	倉西 透	積算Ⅰに引き続き躯体、仕上げの数量積算について講義する。さらには建築積算士に挑戦する基礎作りとする。	2				2	30
		◆ 建築測量実習	高木 宣徳	建築測量は、各種工事の計画・設計、施工などに対し重要な指針を与えるものである。そのため、測量技術の概要を理解させることを主題とする。	1				2	30
		◆ 建築施工図Ⅰ	島崎 潤	コンクリート寸法図や各種工事の現寸図などの施工図の内容を理解すると共に、コンクリート寸法図の作成ができるようにする。	1			2		30
		◆ 建築施工図Ⅱ	島崎 潤	各種施工図の内容を理解すると共に、基本的な各種施工図の作成ができるようにする。	1				2	30
		◇ 総論施工	小椋 康善	建築施工の総仕上げと二級建築士試験の練習を行う。	2				2	30
	設計製図系	◆ 基礎製図	高尾 光俊	製図用具の使い方、文字、線の描き方を習得し、木造や鉄筋コンクリート造の作図表現について模範図の模写をしながら表現力と読解力を養う。	4	8				120
		◆ 設計製図Ⅰ	高尾 光俊	鉄筋コンクリート造、木造住宅の自主設計を行う。各自の考えをどのように表現するか、決められた時間内に製図を仕上げる力を養う。	4		8			120
		◆ 設計製図Ⅱ	湯浅 康生	1年次における基礎製図および設計製図Ⅰで養われた基礎知識を踏まえながら、より自由な発想で空間を捉える能力を養う。また、その範囲を個体としての建築にとどめず、街づくりの一環としての視点も同時に養う。	4			8		120
		◆ 設計製図Ⅲ	高木 宣徳	二級建築士の製図試験に備え、与えられた諸条件を正確に理解し、設計できるようにする。	2				4	60
◆ 卒業設計		湯浅 康生	これまで個々の講義で修得してきた知識の集大成としての建築作品を制作することを目的とする。またテーマやそれに基づく諸々の条件を各自で設定することによって、より自由度と完成度の高い作品を目指す。	4				8	120	
CAD系	◆ CAD実習Ⅰ	福田摩弥子	2次元CADの基本操作を学ぶ。様々な作図やトレースによってCADの操作技術やテクニックを習得し、正確な作図能力を養う。	2	4				60	

	授業形態	教育科目名	担当教員	科目内容	単位数	週授業時間数				時間数
						1年次		2年次		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	◆	CAD 実習Ⅱ	福田摩弥子 高原健一郎	CAD 実習Ⅰを通じて身につけた操作やテクニックに加え、詳細な応用技術を学ぶ。CAD による製図をより豊かに表現するためのプレゼンテーションテクニックを身につけ、より現実的で豊かな表現力を養う。	2		4			60
	◆	CAD 実習Ⅲ	高原健一郎	CAD、CG ソフトの基本操作、プレゼンテーション制作スキルを習得する。より豊かに表現するためのプレゼンテーションテクニックを学ぶことによって、より現実的な空間把握能力を養う。	2			4		60
	◆	CAD 実習Ⅳ	高原健一郎	CAD、CG を統合的に用いて、設計、プレゼンテーションを総合的に行うスキルを習得する。また、卒業設計を補完しながら統合的に表現する技術も同時に学ぶ。	2				4	60
特別講座	▲	ワークショップⅠ		各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	1	2				30
	▲	ワークショップⅡ		各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	1		2			30
	▲	ワークショップⅢ (古民家再生論)		民家は、地域の風土や生活に根ざした住まいの知恵を背景として造られており、それらの再生と創造を通じ、日本人の住まい観や生活観、伝統の知恵と技術などの幅広い知識を体験的に学習する。	1			2		30
	▲	ワークショップⅣ		各種講演、奉仕活動、資格対策講座等	1				2	30
	▲	インターンシップ実習		インターンシップ等	1		2			30
必要修得単位数・時間数					105	38	36	28	36	2,130

◇必修講義科目 ◆必修実習科目 ▲選択実習科目

※ 特別講座は、各種講演、資格対策講座などへの随時参加により単位を認定するものとする。  
卒業必要単位 105 単位 (2130 時間) 103 単位 + 特別講座 2 単位

## 講義内容

授業科目	基礎数学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	頼實 一全				
2. 授業目的	建築法規、環境工学、構造力学、建築積算、建築設計、建築測量など、建築分野では数学の基礎計算力が欠かせない。そこで、本講義では毎回、演習問題に取り組みながら建築分野で必要とされる数学の基礎計算力を習得する。				
3. 達成目標	建築分野で必要とされる数学の基礎計算力を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	講義の予習・復習、実力確認テスト・期末試験に向けた自習など				
5. テキスト	今村仁美・大谷一翔 共著 「図説 やさしい建築数学」 学芸出版社				
6. 参考書	プリント配布				
7. 成績評価	出席状況(20%)、実力確認テスト(30%)、期末試験(50%)の評価を基に評点を決定する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション、四則演算(分数、小数、平方根を含む)				
2回	文字式、指数法則、展開式、一次・二次方程式、連立方程式 ※ 練習問題①②の配布				
3回	練習問題①②の解答&解説				
4回	面積、縮尺、平均地盤面、平均天井高、延べ面積、容積率、建ぺい率				
5回	延べ面積、容積率、建ぺい率、縮尺と倍率、比例式				
6回	三角関数、三平方の定理、三角形の面積(一般式、三角関数を用いた式、ヘロンの公式)				
7回	屋根伏図、屋根部品の寸法、実力確認テストの出題範囲				
8回	実力確認テスト				
9回	60進法の加減乗除、平面角と立体角、指数と対数				
10回	実力確認テストの解答&解説				
11回	微分と積分、放物線の傾きと極大値、放物線とx軸で囲まれた部分の面積、期末試験①の出題範囲				
12回	期末試験①				
13回	期末試験①の解答&解説				
14回	期末試験②の出題範囲				
15回	期末試験②				
備考					

## 講義内容

授業科目	デザイン I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	妹尾 真未 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	デザインの基本概念、造形の基本理念を平面構成、および色彩構成の演習を通じ習得する。また西洋美術史を通じ美術への興味、教養を深める。				
3. 達成目標	基本的な知識、理論、および基礎的な表現方法を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	美術館へ訪問し本物に触れる。学んだ理論、知識が日常でどう生かされているか発見し体感する。				
5. テキスト	西洋美術史/高階秀爾				
6. 参考書	芸術・デザインの色彩構成/朝倉直巳 芸術・デザインの平面構成/朝倉直巳				
7. 成績評価	課題の提出内容及び期末試験の評点をもとに、授業態度等含めを総合的に評価するものとする。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション		色彩構成1		
2回	西洋美術史原始・古代		色彩構成2		
3回	西洋美術史オリエント・エジプト		平面構成1		
4回	西洋美術史ギリシャ		平面構成2		
5回	西洋美術史初期キリスト教美術		色彩構成3		
6回	西洋美術史ロマネスク		平面構成3		
7回	西洋美術史ゴシック		平面構成4		
8回	西洋美術史初期ルネッサンス		平面構成5-1		
9回	西洋美術史盛期ルネッサンス		平面構成5-2		
10回	西洋美術史イタリアルネッサンス		色彩構成4-1		
11回	西洋美術史北方ルネッサンス		色彩構成4-2		
12回	西洋美術史バロック		平面構成6-1		
13回	西洋美術史ロココ		平面構成6-2		
14回	西洋美術史前期総括		課題の完成		
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	デザインⅡ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	妹尾 真未 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	デザイン表現のスキルアップ 近代から現代までの美術史を概観し幅広い知識の修得。				
3. 達成目標	三次元空間デザインの把握と表現するための技術力の向上 芸術、建築、インテリア、プロダクト、ファッション等あらゆる分野におけるデザインの要素に着眼し理解を深める。				
4. 授業時間外に必要な学修	学んだ表現方法と実例を挙げて、実生活におけるデザインの有り様について体感する。				
5. テキスト	色彩／大井義雄、川崎秀昭				
6. 参考書	芸術・デザインの立体構成／朝倉直巳				
7. 成績評価	課題の提出内容及び期末試験の評点をもとに、授業態度等を含め総合的に評価するものとする。				
授業内容とスケジュール					
1 回	平面構成 1	後期内各種展覧会概要			
2 回	色彩構成 1	近代美術概要 1			
3 回	平面構成 2	近代美術概要 2			
4 回	色彩構成 2	近代美術概要 3			
5 回	色彩構成 3	近代美術概要 4			
6 回	立体構成 1	現代美術概要 1			
7 回	立体構成 2	現代美術概要 2			
8 回	立体構成 3	現代美術概要 3			
9 回	立体構成 4	色彩学 1			
10 回	立体構成 5	色彩学 2			
11 回	パース演習 1				
12 回	パース演習 2				
13 回	パース演習 3				
14 回	パース演習 4				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	デッサン				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	池田 有美江				
2. 授業目的	基本形態の性質を知り構図調整法を理解し、制作することを学ぶ。				
3. 達成目標	デッサンの基本的な考え方を理解し、制作すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	授業時間内に完成できなかった課題の制作。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題提出、授業態度等で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	導入				
2 回	パターン出し				
3 回	画面の力関係・構図調整法				
4 回	基本形態・立方体				
5 回	楕円について				
6 回	基本形態・円柱				
7 回	応用・横倒しの円柱				
8 回	基本形態・球				
9 回	デッサン 1 (円錐・球)				
10 回	デッサン 1 (円錐・球)				
11 回	デッサン 2 (横倒しの円柱・立方体)				
12 回	デッサン 2 (横倒しの円柱・立方体)				
13 回	デッサン 3 (質感・精密描写)				
14 回	デッサン 3 (質感・精密描写)				
15 回	まとめ 課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	キャリアマナー				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	長澤 さおり 実務経験：ホスピタリティコンサル会社主宰				
2. 授業目的	「相手に喜んでもらうことが自分の喜びとなる」ことに、働きがい、やりがいを感じる人となることを目指す。「職業人として気持ちの良い環境創りができる力=キャリアマナー」を学び人生の基盤を作る。				
3. 達成目標	就職活動や社会人に必要なコミュニケーション能力・ビジネスマナーを習得し、実践力を高める。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活の中で、目上の方やアルバイトでの接客の対応などの場面を通して、マナーを習慣づける。				
5. テキスト	ホスピタリティ・マナーテキストブック／榊原陽子／一般社団法人CAネットワーク				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション				
2 回	「理想の社会人像」ブレインストーミング・JK法				
3 回	「理想の社会人像」ファシリテーション				
4 回	「理想の社会人像」プレゼンテーション				
5 回	ホスピタリティとは				
6 回	自己を知る・性格フィードバック				
7 回	敬語・ふさわしい言葉遣い I				
8 回	敬語・ふさわしい言葉遣い II				
9 回	伝わる話し方 I				
10 回	コミュニケーション I				
11 回	コミュニケーション II				
12 回	チームビルディング				
13 回	就職面接に向けて I				
14 回	就職面接に向けて II				
15 回	前期期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	RS 特別講義				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築、看護、トリング動物飼育、77A	2年次(一部学科1年次(後期))	必修	講義	2単位
1. 担当者	オムニバス形式				
2. 授業目的	学科の専門分野を超えて様々な分野のプロフェッショナルを招き、その真髄に触れることでプロとしての心構えや意識づけを行うことを目的とする。				
3. 達成目標	様々な専門分野における経験や知識の講義を受けて、プロフェッショナルに共通した考え方や感性、ものの見方を学び、それぞれの専門分野に活かす。				
4. 授業時間外に必要な学修	色々な学問分野に幅広い関心と興味を持つこと。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	各回ごとに提出するレポートと出席状況により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	プロの真髄 ① (心の分野)				
2 回	プロの真髄 ② (ビジネスの分野)				
3 回	プロの真髄 ③ - 1 (共生住宅の分野)				
4 回	プロの真髄 ③ - 2 (共生住宅の分野)				
5 回	プロの真髄 ④ - 1 (自然環境の分野)				
6 回	プロの真髄 ④ - 2 (自然環境の分野)				
7 回	プロの真髄 ⑤ - 1 (福祉の分野)				
8 回	プロの真髄 ⑤ - 2 (福祉の分野)				
9 回	プロの真髄 ⑥ - 1 (デザインの分野)				
10 回	プロの真髄 ⑥ - 2 (デザインの分野)				
11 回	プロの真髄 ⑦ (考古学の分野)				
12 回	プロの真髄 ⑧ - 1 (笑いの分野)				
13 回	プロの真髄 ⑧ - 2 (笑いの分野)				
14 回	プロの真髄 ⑨ (教育の分野)				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	建築計画Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建物を創造したり改善(リファイン)するためには、様々な環境問題や建築空間と人間との関係を学ぶことが必要不可欠となる。そのための理念やプロセス、計画手法等について幅広い知識を学ぶ。				
3. 達成目標	建築を計画する基本的な知識を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	プリント配布				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	建築士の計画における役割				
2回	建築士の計画における役割				
3回	形態の連続性・調和を考える(演習)				
4回	設計における計画の進め方(企画・調査)				
5回	設計における計画の進め方(基本計画)				
6回	駐車場計画(演習)				
7回	設計における計画の進め方(構造計画)				
8回	ラーメン構造、木構造柱配置(演習)				
9回	設計における計画の進め方(各部の計画)				
10回	屋根の計画(演習)				
11回	設計における計画の進め方(基本計画)				
12回	開口部の計画(演習)				
13回	設計における計画の進め方(基本計画)				
14回	コアの計画(演習)				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築計画Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	各種建築物(集合住宅、学校、劇場、図書館、博物館、宿泊施設、医療施設、商業施設、高齢者施設、その他施設)の施設毎に設計手法を学ぶ。				
3. 達成目標	建築を計画する専門的な知識を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	プリント配布				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	集合住宅				
2回	集合住宅				
3回	幼稚園、保育園				
4回	幼稚園、保育園				
5回	小学校、中学校				
6回	小学校、中学校				
7回	劇場				
8回	図書館				
9回	博物館				
10回	宿泊施設				
11回	医療施設				
12回	商業施設				
13回	高齢者施設				
14回	その他施設				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	設計特論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築を学ぶ上で必要な3つの素養(①スケール感 ②立体把握 ③スケッチ)を身につけ、建築計画の基礎となる空間の見え方や考え方について学ぶ。				
3. 達成目標	3つの素養の基本的な考え方を理解すること、演習により身に付けた基礎的なトレーニングを実践できること。				
4. 授業時間外に必要な学修	演習で身につけたトレーニングを実際に活用して、身体尺を使つての長さの測定やスケッチを試みること。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	演習課題や聴講態度などを総合的に判断して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション 建築の発生と発達の要因				
2回	身体尺①				
3回	身体尺②				
4回	三面図				
5回	かたちと幾何学①				
6回	かたちと幾何学②				
7回	錯視①				
8回	錯視②				
9回	スライドスケッチ				
10回	建築家研究①				
11回	建築家研究②				
12回	建築家研究③				
13回	言葉と建築①				
14回	言葉と建築②				
15回	まとめとレポート				
備考					

## 講義内容

授業科目	環境工学 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築に関わる環境を理解するとともに、自然が建築に及ぼす影響とその対策について把握すること。				
3. 達成目標	建築環境工学の基礎である、太陽、光、色彩、換気的环境について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常の生活の中で、建物と自然環境との繋がりを影響を認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築環境工学」／倉淵 隆 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	建築環境工学とは何か				
2回	都市、地球の環境				
3回	太陽位置、日影				
4回	日射				
5回	光環境、照度				
6回	採光、照明計画				
7回	照度計算				
8回	演習問題				
9回	色彩				
10回	換気				
11回	換気計算				
12回	演習問題(1)				
13回	演習問題(2)				
14回	前期のまとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	環境工学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築に関わる環境を理解するとともに、自然が建築に及ぼす影響とその対策について把握すること。				
3. 達成目標	建築環境工学の基礎である、熱、空気環境、音環境、について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活の中で、建物と自然環境との繋がりを認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築環境工学」／倉淵 隆 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	熱環境 熱の流れ				
2回	熱貫流率				
3回	断熱、省エネルギー				
4回	演習問題				
5回	湿気 空気線図				
6回	結露				
7回	人体の熱環境				
8回	演習問題				
9回	騒音				
10回	遮音・吸音				
11回	演習問題(1)				
12回	演習問題(2)				
13回	演習問題(3)				
14回	後期のまとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築設備Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山口 裕達 実務経験：建築設備設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築における、建築設備の分野を理解し、その役割と重要性を習得する。				
3. 達成目標	建築設備の基礎として、給排水衛生設備・電気設備について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活の中で、設備の役割を理解するとともに、生活との関わりを認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築設備」／大塚雅之 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	建築設備の概要、給水				
2回	給水方式				
3回	給水配管、機器				
4回	給湯設備				
5回	衛生器具				
6回	排水設備				
7回	排水トラップ				
8回	通気設備				
9回	浄化槽				
10回	電気設備と電気の供給				
11回	電気設備の計画				
12回	配線、分電盤				
13回	照明、弱電設備				
14回	まとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築設備Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	山口 裕達 実務経験：建築設備設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築における、建築設備の分野を理解し、その役割と重要性を習得する。				
3. 達成目標	建築設備の基礎として、空調設備について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常の生活の中で、設備の役割を理解するとともに、生活との関わりを認識すること。				
5. テキスト	初学者の建築講座「建築設備」／大塚雅之 著／市ヶ谷出版				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	空調設備の概要				
2回	冷房				
3回	暖房				
4回	空気線図				
5回	空調方式				
6回	空調の計画				
7回	暖房設備				
8回	換気設備				
9回	冷凍機				
10回	ヒートポンプ				
11回	空調機器				
12回	演習問題				
13回	問題と解説				
14回	まとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築史				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	原始から現代までの建築様式の変遷の流れをとらえることにより、建築技術者として必要な常識を養い、自らの進路を開くための基礎とする。				
3. 達成目標	建築物の歴史を知ることによって人類の歩みを理解し、建築を好きになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築様式を理解するために実在する建築物を見たり、参考資料を調べることにより常識を養う。				
5. テキスト	建築史 増補改訂版／藤岡通夫、渡辺保忠、桐敷真次郎、平井 聖、河東義之、斎藤哲也／市ヶ谷出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	日本古代の建築				
2回	飛鳥・奈良時代の仏寺建築				
3回	平安時代の仏寺建築				
4回	日本中世の建築、新しい仏寺様式、和様と新様式				
5回	日本近代の建築、城郭建築				
6回	近世の住宅、数寄屋建築、茶室、霊廟建築				
7回	西洋建築史、西洋古代の建築、エジプト建築				
8回	オリエント建築、ギリシャ建築				
9回	ローマ建築				
10回	西洋中世の建築、ビザンチン建築				
11回	ゴシック建築				
12回	ルネッサンス建築				
13回	バロック建築				
14回	まとめ				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	インテリアデザイン				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	土師 純子 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	インテリアの歴史やエレメントの基礎知識を習得し、インテリアデザインに必要な技術や方法なども学ぶ。				
3. 達成目標	インテリアの歴史やエレメントの基礎知識の習得。				
4. 授業時間外に必要な学修	日常生活において、住宅や店舗・公共施設などのインテリアに興味や関心を持つ。				
5. テキスト	インテリアデザイン教科書／インテリアデザイン教科書研究会編著／彰国社				
6. 参考書	インテリアコーディネーターハンドブック 上・下／公益社団法人 インテリア産業協会				
7. 成績評価	期末試験の評点に、出席状況・受講態度・提出物等を考慮して総合的に評価する				
授業内容とスケジュール					
1 回	インテリアデザインとは 日本の住まいとインテリアの変遷				
2 回	西洋の住まいと家具様式の変遷				
3 回	第二次世界大戦後のデザインの流れと日本の現代家具				
4 回	家具・設備への人間工学の応用 インテリアの安全性				
5 回	カラーコーディネート				
6 回	家具の種類と構造				
7 回	内装仕上げ材 ①				
8 回	内装仕上げ材 ②				
9 回	照明器具				
10 回	照明計画				
11 回	住宅設備機器 ①				
12 回	住宅設備機器 ②				
13 回	住宅設備機器 ③				
14 回	ウインドウトリートメント				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築法規 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築物を造り、これを維持していく秩序で、社会的に要求されるものが建築法規である。その中核である建築基準法を中心とした法体系の概念と、総則規定、集団規定について学ぶ。				
3. 達成目標	建築基準法の基礎的な内容を理解するとともに、法体系の目指す方向性を大局的に把握できること。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な建築物を題材にして、疑問を感じるがあれば、その理由や対策を考えてみる。また、まちの景観や保全の視点から規制について考察してみる。				
5. テキスト	基本建築関係法令集／編集：国土交通省住宅局建築指導課建築技術者試験研究会／井上書院				
6. 参考書	基礎教材建築法規／井上書院				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	法令の体系、法律用語の解説				
2 回	用語の定義①				
3 回	用語の定義②				
4 回	面積・高さの算定方法①				
5 回	面積・高さの算定方法②				
6 回	面積・高さの算定方法③				
7 回	集団規定 用途地域				
8 回	集団規定 建ぺい率①				
9 回	集団規定 建ぺい率②				
10 回	集団規定 容積率①				
11 回	集団規定 容積率②				
12 回	集団規定 高さ制限①				
13 回	集団規定 高さ制限②				
14 回	集団規定 まとめと演習				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築法規Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築物を造り、これを維持していく秩序で、社会的に要求されるものが建築法規である。その中核である建築基準法を中心とした法体系の概念と、単体規定、その他の法令について学ぶ。				
3. 達成目標	建築基準法の基礎的な内容を理解するとともに、法体系の目指す方向性を大局的に把握できること。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な建築物を題材にして、疑問を感じるがあれば、その理由や対策を考えてみる。また、まちの景観や保全の視点から規制について考察してみる。				
5. テキスト	基本建築関係法令集／編集：国土交通省住宅局建築指導課建築技術者試験研究会／井上書院				
6. 参考書	基礎教材建築法規／井上書院				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	単体規定 一般構造①				
2 回	単体規定 一般構造②				
3 回	単体規定 一般構造③				
4 回	単体規定 耐火・準耐火建築物				
5 回	単体規定 防火地域・準防火地域				
6 回	単体規定 構造規定①				
7 回	単体規定 構造規定②				
8 回	単体規定 防火区画①				
9 回	単体規定 防火区画②				
10 回	単体規定 避難施設①				
11 回	単体規定 避難施設②				
12 回	単体規定 内装制限				
13 回	その他の規定①				
14 回	その他の規定②、まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論計画				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	二級建築士の学科試験対策と二年間の学習知識を復習する授業であり、過去の試験問題を解説して試験に必要な知識を得る。				
3. 達成目標	計画分野について必要な知識を再確認する。				
4. 授業時間外に必要な学修	難解な問題について、教科書や資料を調べることで、より深い知識を身につける。				
5. テキスト	学科厳選問題集 500 + 100 / 総合資格学院				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	計画原論 (1)				
2 回	計画原論 (2)				
3 回	計画原論 (3)				
4 回	計画原論 (4)				
5 回	計画原論 (5)				
6 回	計画各論 (1)				
7 回	計画各論 (2)				
8 回	計画各論 (3)				
9 回	計画各論 (4)				
10 回	建築設備 (1)				
11 回	建築設備 (2)				
12 回	建築設備 (3)				
13 回	建築設備 (4)				
14 回	建築史				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論法規				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築士試験の問題集を中心とした演習を通じて、建築法規Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を復習し、より深く理解することを目的とする。				
3. 達成目標	個々の規定を深く理解するとともに、問題をより早く正確に解けるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	問題と解答を繰り返し見直し、疑問点を解決する努力をすること。				
5. テキスト	基本建築関係法令集／編集：国土交通省住宅局建築指導課建築技術者試験研究会／井上書院 厳選問題集 500 + 100／総合資格学院				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	用語の定義				
2 回	面積・高さの算定方法				
3 回	一般構造				
4 回	耐火・防火				
5 回	防火区画				
6 回	避難施設				
7 回	内装制限				
8 回	構造計算				
9 回	敷地と道路				
10 回	用途地域				
11 回	建ぺい率				
12 回	容積率				
13 回	高さ制限				
14 回	その他の法令				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	一般構造Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	建築物の構造の構成や仕組みについて、より専門的な知識を習得する前段階としての基本的な知識を浅く広い内容で身に付ける事を目的とする。				
3. 達成目標	各構法の特徴と、その構法選定の為に必要な事と優先すべき内容について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	より理解を深める為、街中の工事現場を可能な限り覗いてみたり、ホームセンターなどで本物の建材を手にとってみるなど『実物』に触れる機会を多くもつ。				
5. テキスト	「建築構法」 第五版／内田祥哉 編著／市ヶ谷出版社				
6. 参考書	「ビジュアルハンドブック必携建築資料」／実教出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築構法とは 建築物の性能				
2 回	建築物の構成				
3 回	建築物の構造方式				
4 回	建築物の設備、家具、造作				
5 回	建築物の施工、生産				
6 回	建築物への荷重				
7 回	建築物の力の流れ				
8 回	鉄骨造 材料と構造				
9 回	鉄骨造 トラス構造				
10 回	鉄筋コンクリート造 材料と構法 ラーメン				
11 回	鉄筋コンクリート造 ラーメン				
12 回	鉄筋コンクリート造 壁式構法 プレキャストコンクリート				
13 回	補強組積造、組積造				
14 回	プレストレスコンクリート、鉄骨鉄筋コンクリート造				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	一般構造Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	赤城 忠男 実務経験：住宅会社勤務				
2. 授業目的	建築物を構成する部位別の構法や性能、及び、それらの使用材料についての基礎知識を習得する事を目的とする。				
3. 達成目標	各構法毎の特徴と、その構法選定の為に必要な事と優先すべき内容について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	建物(自宅・学校・職場・店舗)をただ漠然と使用するのではなく、壁や床、窓や建具などがどのような素材や仕組みになっているかを、触る、叩く、動かすなど常に観察する意識を持つ。				
5. テキスト	「建築構法」 第五版/内田祥哉 編著/市ヶ谷出版社				
6. 参考書	「ビジュアルハンドブック必携建築資料」 実教出版				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	木構造	材料と構造			
2回	木構造	小屋組と床組			
3回	木構造	耐力壁、在来工法の施工、ツーバイフォー構法			
4回	地業、基礎				
5回	屋根	屋根の機能と形状			
6回	屋根	各部の納まり、陸屋根、防水			
7回	壁	種類と機能、構成			
8回	壁	湿式壁、板壁、タイル、石貼り			
9回	壁	帳壁、カーテンウォール			
10回	開口部、建具				
11回	開口部の構成、ガラス、金物				
12回	床	機能と構成			
13回	階段				
14回	天井				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	基礎・構造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	石井 さやか 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	身近な材料を使って実験しながら、構造の基本である「曲がる」「折れる」などの事象について学び、構造のおもしろさと大切さを知ってもらう。				
3. 達成目標	授業内容や実験を通して少しでも構造に興味を持ってもらい、構造の基本的な内容を理解すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	多くの建築物を実際に見学し、どのような構造体で成り立っているのか考えてみる。				
5. テキスト					
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、聴講態度、期末試験				
授業内容とスケジュール					
1回	建築の構造・荷重				
2回	構造材料と構造種別・組積造アーチ実験				
3回	構造材料と構造種別・鐘撞堂模型の組立実験				
4回	構造形式				
5回	力の釣り合い				
6回	応力の基本状態				
7回	曲げ理論①・曲げ実験				
8回	曲げ理論②・梁の破壊実験				
9回	たわみ理論①・たわみ実験				
10回	たわみ理論②				
11回	床梁の設計				
12回	座屈理論①・座屈実験				
13回	座屈理論②				
14回	まとめ演習				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	構造力学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築構造力学の基本的な知識を理解し、構造への興味と関心を引き出す。				
3. 達成目標	構造的視点の観察力をつくること、建築士試験における構造に対する処理力をつくること。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築構造力学の基礎で用いる、数学の基礎的な知識を復習し応用できる力を学修してほしい。				
5. テキスト	改訂版 図説 やさしい構造力学/学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出欠・受講態度を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	力学の基本説明、力の内容と種類				
2 回	力のモーメント、合力のモーメント=分力のモーメントの総和というルールについて				
3 回	力のつり合い、建築構造部の理解、支点・節点の反力				
4 回	支点と反力について(1) 単純梁(集中・等分布荷重)				
5 回	支点と反力について(2) 単純梁(モーメント荷重)・片持梁				
6 回	支点と反力について(3) 静定ラーメン・ヒンジのあるラーメン				
7 回	応力(内力)について(1) 応力図 単純梁(せん断力)				
8 回	応力(内力)について(2) 応力図 単純梁(曲げモーメント)				
9 回	応力(内力)について(3) 応力図 片持梁				
10 回	応力(内力)について(4) 応力図 静定ラーメン				
11 回	応力(内力)について(5) 静定ラーメンの応力				
12 回	応力(内力)について(6) 静定ラーメンの応力(3ヒンジ系)・演習				
13 回	演習問題				
14 回	総まとめ、演習問題				
15 回	期末テスト				
備 考					

## 講義内容

授業科目	構造力学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	4単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築構造力学の基本的な知識を理解し、構造への興味と関心を引き出す。				
3. 達成目標	構造的視点の観察力をつくること、建築士試験における構造に対する処理力をつくること。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築構造力学の基礎で用いる、数学の基礎的な知識を復習し応用できる力を学修してほしい。				
5. テキスト	改訂版 図説 やさしい構造力学/学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出欠・受講態度を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	構造力学Ⅰの見直し、トラスの解法について(1)				
2 回	トラスの解法について(2)				
3 回	断面に関する数量について(1) 断面一次モーメント				
4 回	断面に関する数量について(2) 断面二次モーメント				
5 回	応力度、座屈について				
6 回	ひずみ度とたわみについて				
7 回	不静定構造の概念と基本事項				
8 回	不静定ばりの変形				
9 回	不静定構造の解法、固定モーメント法の基礎				
10 回	固定モーメント法(1)(演習問題)				
11 回	固定モーメント法(2)(演習問題)、塑性解析について				
12 回	荷重と外力について 荷重・外力全般、地震力・風圧力				
13 回	演習問題				
14 回	総まとめ、演習問題				
15 回	期末テスト				
備 考					

## 講義内容

授業科目	構造設計Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	熊城 正樹 実務経験：意匠、構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	難しいと考えがちな構造計算について、デザインと構造の繋がり。計算式条件等の意味を理解して、構造計算に少しでも興味を持ってもらうこと。				
3. 達成目標	施主との打ち合わせで、押さえて起きたい、構造関係の設計条件を理解し、鉄筋コンクリート造の基本算定式を押さえて、応用の為の基礎を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身の回りの建物の意匠デザインと、風荷重、地震荷重、積雪荷重等との、関連性について、注意を向けて、考えることが出来る様になることが望ましい。				
5. テキスト	図説 やさしい構造設計／浅野清昭／学芸出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	鉄筋コンクリート造の特徴、建築基準法との関連				
2 回	構造計画（断面仮定の方法）				
3 回	荷重について（固定荷重、積載荷重）				
4 回	ラーメン材の剛度、剛比				
5 回	地震力について				
6 回	地震力の計算				
7 回	D 値法によるラーメンの計算				
8 回	ラーメンの層間変形角の計算				
9 回	中間試験				
10 回	鉄筋とコンクリートの許容応力度について				
11 回	床スラブの設計				
12 回	梁の曲げモーメント、せん断力と断面性能				
13 回	梁断面の算定				
14 回	柱断面の算定				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	構造設計Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	熊城 正樹 実務経験：意匠、構造設計事務所主宰				
2. 授業目的	難しいと考えがちな構造計算について、デザインと構造の繋がり。計算式条件等の意味を理解して、構造計算に少しでも興味を持ってもらうこと。				
3. 達成目標	施主との打ち合わせで、押さえて起きたい、構造関係の設計条件を理解し、鉄骨造の、基本算定式を押さえて、応用の為の基礎を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身の回りの建物の意匠デザインと、風荷重、地震荷重、積雪荷重等との、関連性について、注意を向けて、考えることが出来る様になることが望ましい。				
5. テキスト	図説 やさしい構造設計／浅野清昭／学芸出版				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	鋼構造の特徴、建築基準法との関連				
2 回	構造計画（断面仮定の方法）				
3 回	荷重計算（固定荷重、積載荷重）				
4 回	ラーメン材の剛度、剛比				
5 回	地震力の計算				
6 回	風圧力について				
7 回	風圧力の計算				
8 回	中間試験				
9 回	鋼材の許容応力度について				
10 回	筋かいの設計（1）				
11 回	筋かいの設計（2）（高力ボルト接合、溶接の検討）				
12 回	梁断面の算定（1）（幅厚比、横座屈について）				
13 回	梁断面の算定（2）（許容応力度設計法）				
14 回	柱断面の算定（細長比について）				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	木構造 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	石井 さやか 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	最も身近な建築物といえる木造住宅に関する内容を中心に、その架構や歴史的背景、実務経験に役立つ構造計画について学ぶ。				
3. 達成目標	授業内容や実験を通して木構造に興味を持ってもらい、木構造の基本的な内容を理解すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	多くの建築物を実際に見学し、どのような構造体で成り立っているのか考えてみる。				
5. テキスト	里川長生 著 改訂版 木造建築—住宅設計の実務— 理工図書				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、聴講態度、期末試験				
授業内容とスケジュール					
1 回	屋根①				
2 回	屋根②				
3 回	柱と座屈①				
4 回	柱と座屈②				
5 回	平面と間取り				
6 回	木造住宅各部説明①				
7 回	木造住宅各部説明②				
8 回	木造住宅の耐震化対策				
9 回	筋交による耐震壁				
10 回	令 46 条壁量計算①				
11 回	令 46 条壁量計算②				
12 回	令 46 条壁量計算③				
13 回	まとめ演習①				
14 回	まとめ演習②				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	木構造 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	島村 鐵二 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	木造の構造技術の要点とデザインの諸要素の修得。				
3. 達成目標	木造の構造、意匠の設計の基本を身に着けること。				
4. 授業時間外に必要な学修	できるだけたくさんの建築事例を見ること。				
5. テキスト	木構造 I より継続。資料配布				
6. 参考書					
7. 成績評価	試験の評点を基準にし、受講態度などの評価を加える。				
授業内容とスケジュール					
1 回	日本の建築家紹介、数学の一部解説				
2 回	日本の民家研究の事例を取り上げる、各地の民家の写真、図面を紹介				
3 回	伝統木造の構造を解説し、知識を深める				
4 回	関数の考え方を学習する。その演習				
5 回	梁の曲げ、曲げ理論、内部応力度				
6 回	梁の曲げ、たわみ公式とその応用				
7 回	圧縮材の座屈、オイラーによる解明と座屈公式				
8 回	色々な形、デザインの諸要素(1)				
9 回	現代建築運動から始まる諸建築運動の歴史				
10 回	梁の配置練習、横架材間距離と柱の小径、柱の決定の仕方				
11 回	耐風、耐震壁、壁量の計算の仕方				
12 回	耐風、耐震壁、設計の演習				
13 回	建築デザインの諸要素(2)、多くのデザイン事例の紹介				
14 回	木造の継手と仕口、および全体の復習				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築材料				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築物を構成する材料の基本的な特性を理解し、最適な建築材料を使い分ける知識や能力を身につける。				
3. 達成目標	構造の基材となる木材、鋼材、コンクリートから、仕上げを担う様々な材料の種類や特性を理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な建物に用いられる材料について、実際に触れることでその材料のもつ印象や雰囲気を感じてみる。				
5. テキスト	わかる建築学 6「建築材料」／吉松賢二、森 利弘、佐々木静郎、石橋久義 他著／学芸出版社				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築材料の基本				
2 回	木材の種類、特徴				
3 回	木材の強度、規格				
4 回	コンクリートの概要				
5 回	コンクリートの性質				
6 回	コンクリートの種類				
7 回	鋼材の概要				
8 回	鉄筋の種類と性質				
9 回	鉄骨の種類と性質				
10 回	焼成品の概要				
11 回	ガラス、石材				
12 回	左官材料、ボード類				
13 回	演習問題				
14 回	前期のまとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	材料実験				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	講義	1単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築物の構造体となる3つの材料(木材、コンクリート、鋼材)を取り上げ、その力学的性質、物理的特質について、実験を通じて体験的に学ぶ。				
3. 達成目標	個々の材料についての基礎的な知識を身につけるだけでなく、それぞれの材料を比較することで、その特徴や使い方の理解が深まること。				
4. 授業時間外に必要な学修	それぞれの実験を行う前に、建築材料で習った内容について復習をしておくこと。				
5. テキスト	プリント配布				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	実験レポートの提出と受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	材料実験の概要				
2 回	木材の圧縮試験				
3 回	木材の曲げ試験				
4 回	木材の実験解説				
5 回	細骨材比重試験				
6 回	セメント比重試験				
7 回	フロー試験				
8 回	コンクリート調合計算				
9 回	コンクリート調合				
10 回	セメント強度試験				
11 回	同上解説				
12 回	コンクリート強度試験				
13 回	同上解説				
14 回	鉄筋引張試験				
15 回	まとめ、レポート提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論構造				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	植田 晋也 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	二級建築士学科試験における構造分野の基礎的な理解を目的とする。				
3. 達成目標	構造の試験において25問中15点程度の得点を旨とする。				
4. 授業時間外に必要な学修	構造の試験は7割が法規よりの出題であり、1割は施工と密接な関係を持つ。まずは法規分野の理解を率先して欲しい。				
5. テキスト	厳選問題集500+100 / 総合資格学院				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	二級建築士試験における構造の位置づけの説明及び力の釣り合い				
2回	力学① 反力と応力				
3回	力学② 単純梁、静定ラーメンに生じる応力				
4回	力学③ トラスと断面の性質				
5回	力学④ 座屈と荷重と外力				
6回	地盤・基礎				
7回	木構造① 木材と木質材料				
8回	木構造② 木構造				
9回	木構造③ 仕口と接手 枠組壁工法				
10回	鉄筋コンクリート① 材料				
11回	鉄筋コンクリート② 鉄筋コンクリート構造				
12回	鉄骨構造① 材料				
13回	鉄骨構造② 鉄骨構造				
14回	その他構造と材料				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	中山 竜宏 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築施工の全体の流れを把握し、工法や安全性などを理解することで建築技術者としての素養を身につける。				
3. 達成目標	建築工事の内、積算、工事契約に始まり、工程計画、仮設計画などの施工計画の基本と、重要な工種の一つである鉄筋コンクリート工事に関して、実際の工事現場の写真や動画による講義を通じて知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の工事現場を目にした際に、その状況を講義で習得した知識を照らし合わせて、自ら考察し建築施工のイメージをより深めていく。				
5. テキスト	「図説 やさしい建築施工」 学芸出版社				
6. 参考書	「図説 やさしい建築施工」 / 松本 進、白井博史 / 学芸出版社				
7. 成績評価	期末試験の評点に出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	ガイダンス (建築施工のあらまし)				
2回	施工管理とは				
3回	積算・工事契約				
4回	施工計画				
5回	施工管理(1)				
6回	施工管理(2)				
7回	地盤調査・測量				
8回	仮設工事				
9回	土工事				
10回	基礎地業工事				
11回	鉄筋コンクリート工事(1)				
12回	鉄筋コンクリート工事(2)				
13回	鉄筋コンクリート工事(3)				
14回	鉄筋コンクリート工事(4)				
15回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	中山 竜宏 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築施工の全体の流れを把握し、工法や安全性などを理解することで建築技術者としての素養を身につける。				
3. 達成目標	建築工事の内、建築施工Ⅰで学んだ内容（～鉄筋コンクリート工事）以降の鉄骨工事、内外装工事、設備工事及び建物維持管理に関して実際の工事現場の写真や動画による講義を通じて知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	実際の工事現場を目にした際に、その状況を講義で習得した知識を照らし合わせて、自ら考察し建築施工のイメージをより深めていく。				
5. テキスト	「図説 やさしい建築施工」／松本 進、白井博史／学芸出版社				
6. 参考書					
7. 成績評価	期末試験の評点に出席状況、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	鉄骨工事（1）				
2 回	鉄骨工事（2）				
3 回	コンクリートブロック工事				
4 回	木工事（1）				
5 回	木工事（2）				
6 回	防水工事				
7 回	屋根工事				
8 回	左官工事				
9 回	タイル工事・石工事				
10 回	塗装工事・建具工事				
11 回	内装工事				
12 回	外装工事				
13 回	設備工事				
14 回	建物維持管理				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築積算Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	倉西 透 実務経験：建築積算事務所主宰				
2. 授業目的	建築積算手法の習得及び建築積算士補の資格取得。				
3. 達成目標	建築積算の基礎的な内容を理解するとともに、建築積算士補取得を目指すこと。				
4. 授業時間外に必要な学修	二次元である図面に描いてあるものを、立体的に捉えることについて考察してみる。				
5. テキスト	「建築積算」／編集・著作者 日本建築積算協会／発行 日本建築積算協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、授業へ臨む姿勢、期末試験。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築積算（躯体）概要、設計図書				
2 回	躯体の計算及び計測：土工事①				
3 回	躯体の計算及び計測：土工事②				
4 回	躯体の計算及び計測：土工事③				
5 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事①				
6 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事②				
7 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事③				
8 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事④				
9 回	躯体の計算及び計測：コンクリート・型枠工事⑤				
10 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事①				
11 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事②				
12 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事③				
13 回	躯体の計算及び計測：鉄筋工事④				
14 回	躯体積算の振り返り				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築積算Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	倉西 透 実務経験：建築積算事務所主宰				
2. 授業目的	建築積算手法の習得及び建築積算士補の資格取得。				
3. 達成目標	建築積算の基礎的な内容を理解するとともに、建築積算士補取得を目指すこと。				
4. 授業時間外に必要な学修	二次元である図面に描いてあるものを、立体的に捉えることについて考察してみる。				
5. テキスト	「建築積算」／編集・著作者 日本建築積算協会／発行 日本建築積算協会				
6. 参考書					
7. 成績評価	出席状況、授業へ臨む姿勢、期末試験。				
授業内容とスケジュール					
1 回	建築積算(仕上)概要、設計図書				
2 回	外部仕上の計算及び計測：屋根①				
3 回	外部仕上の計算及び計測：屋根②				
4 回	外部仕上の計算及び計測：屋根③				
5 回	外部仕上の計算及び計測：外壁①				
6 回	外部仕上の計算及び計測：外壁②				
7 回	外部仕上の計算及び計測：外壁③				
8 回	外部仕上の計算及び計測：外壁④				
9 回	内部仕上の計算及び計測：内装①				
10 回	内部仕上の計算及び計測：内装②				
11 回	内部仕上の計算及び計測：内装③				
12 回	仕上積算の振り返り				
13 回	建築積算士補 受験				
14 回	建築積算士補試験、建築積算全体の振り返り				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築測量実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	1単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	建築測量技術の概要を理解し、測量機器のしくみと取り扱いを習得する。				
3. 達成目標	レベル測量、平板測量、トラバース測量等の基本的な測量の方法、機器の取り扱い、計算方法について理解する。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	「図説 測量実習」／藤井 衛、伊集院博、千葉一雄 著／産業図書				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	授業中行う機器設置の達成度試験、期末試験の評点を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	測量の概要 標尺の読み方、練習問題、器高式野帳の付け方				
2 回	器高式野帳の付け方、レベルの据え付け方、視差の消去法				
3 回	実習 水準測量 レベルの据え付け方、視差の消去法				
4 回	実習 水準測量 レベル(屋外での器高式の練習)				
5 回	実習 水準測量 レベル(屋外での器高式の練習)				
6 回	実習 トラバース測量 トランシットの据え付け方				
7 回	実習 トラバース測量(角度の測量)				
8 回	実習 トラバース測量(鉛直の測量)				
9 回	実習 平板測量 平板の据え付け方				
10 回	実習 平板測量(放射法による測量)				
11 回	実習 平板測量(進測法による測量)				
12 回	距離測量、面積計算(ヘロンの公式)				
13 回	角度の計算、レベル野帳の練習				
14 回	問題演習、まとめ				
15 回	期末試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工図 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	島崎 潤 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	各種コンクリート躯体図を作成することにより ①建築施工図とはどのようなものか ②建築施工図の作図方法の基本 ③一般的な建築の納まり詳細を理解する。				
3. 達成目標	各種コンクリート躯体図の作成ができるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近にある建物の、各部の納まりがどのように工夫されているか留意してみる。				
5. テキスト	建築施工図(市ヶ谷出版)				
6. 参考書					
7. 成績評価	演習課題の提出、出席状況、聴講態度。				
授業内容とスケジュール					
1回	建築施工図の概要				
2回	設計図の読取り				
3回	基礎伏図の作成				
4回	基礎伏図の作成				
5回	基礎伏図の作成				
6回	基礎断面図の作成				
7回	基礎断面図の作成				
8回	基礎断面図の作成				
9回	1階躯体図の作成				
10回	1階躯体図の作成				
11回	1階躯体図の作成				
12回	1階躯体断面図の作成				
13回	1階躯体断面図の作成				
14回	1階躯体断面図の作成				
15回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	建築施工図 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	実習	1単位
1. 担当者	島崎 潤 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	各種内装仕上げ割付図を作成することにより ①建築施工図とはどのようなものか ②割付図の作図方法の基本 ③一般的な建築の納まり詳細を理解する。				
3. 達成目標	各種内装仕上げ割付図の作成ができるようにする。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近にある建物の、各部の納まりがどのように工夫されているか留意してみる。				
5. テキスト	建築施工図(市ヶ谷出版)				
6. 参考書					
7. 成績評価	演習課題の提出、出席状況、聴講態度。				
授業内容とスケジュール					
1回	階段躯体図の作成				
2回	階段躯体図の作成				
3回	ブロック割付図の作成				
4回	ブロック割付図の作成				
5回	天井伏図の作成				
6回	天井伏図の作成				
7回	天井伏図の作成				
8回	床タイル割付図の作成				
9回	床タイル割付図の作成				
10回	壁タイル割付図の作成				
11回	壁タイル割付図の作成				
12回	壁タイル割付図の作成				
13回	外部足場計画図の作成				
14回	外部足場計画図の作成				
15回	課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	総論施工				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	講義	2単位
1. 担当者	小椋 康善 実務経験：建設会社勤務、県立工業高校教諭				
2. 授業目的	建築施工の総仕上げと、二級建築士受験（建築施工）に備える。				
3. 達成目標	プリント資料を用いた講義により、試験問題のポイントについて学び直す。また、過去問題を用いた解説を行うことで、2級建築士建築施工の実践的知識を習得する。				
4. 授業時間外に必要な学修	過去の建築施工試験問題を丁寧に学習し、不明なところや、理解できていないところを把握することで、正確な知識を習得する。				
5. テキスト	2級建築士試験 学科 厳選問題集 500 + 100 / 総合資格学院 / (株) 総合資格				
6. 参考書					
7. 成績評価	定期試験、課題、受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	1. 契約 2. 施工計画				
2 回	3. 監理計画 4. 仮設工事				
3 回	5. 地盤・土工事・基礎				
4 回	6. 鉄筋工事				
5 回	7. 型枠工事				
6 回	8. コンクリート工事				
7 回	9. 鉄骨工事 10. コンクリートブロック工事				
8 回	11. 木工事 12. 防水工事				
9 回	13. 左官工事 14. タイル・石工事				
10 回	15. 塗装工事 16. 建具・ガラス工事				
11 回	17. 内装工事 18. 改修工事				
12 回	19. 設備工事 20. 各部工事融合 21. 施工機械器具				
13 回	22. 測量 23. 積算				
14 回	総論施工のまとめ				
15 回	定期試験				
備考					

## 講義内容

授業科目	基礎製図				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年次(前期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	製図道具の使い方・線・文字の描き方習得し、木造や鉄筋コンクリート造の作図表現について模範図の模写をしながら表現力と読解力を養う。				
3. 達成目標	図面は、設計意図を相手に伝える為の基本的なツールである。作図テクニックを早く身に付け、図面の奥深さや描く事の楽しさを見つけ出してほしい。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築雑誌など平日頃から触れ、様々な種類の図面を身近に感じる。				
5. テキスト	定番 建築製図入門 / 彰国社				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	製図道具の説明、線・文字の練習				
2 回	図面の描き方				
3 回	木造住宅の図面（平面図）				
4 回	木造住宅の図面（断面図）				
5 回	木造住宅の図面（立面図）				
6 回	木造住宅の図面（配置図）				
7 回	木造住宅の図面（床伏図）				
8 回	木造住宅の図面（矩計図）				
9 回	夏季休暇宿題（木造住宅）				
10 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（平面図）				
11 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（断面図）				
12 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（立面図）				
13 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（配置図）				
14 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（矩計図）				
15 回	鉄筋コンクリート造3階建て事務所ビルの図面（矩計図）				
備考					

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1年生(後期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	高尾 光俊 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	鉄筋コンクリート造・木造住宅の自主設計を行う。各自の考えを設計に生かし表現する方法や決められた時間内に設計を仕上げる力を養う。				
3. 達成目標	建築士製図試験に必要な作図テクニックや、建築計画や構造などを総合的に判断する能力を身に付ける。				
4. 授業時間外に必要な学修	建築雑誌など平日頃から触れ、様々な種類の図面を身近に感じる。				
5. テキスト	定番 建築製図入門／彰国社				
6. 参考書					
7. 成績評価	提出課題に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	課題1、地域に開かれた博物館(展示空間)				
2 回	エスキーステック				
3 回	エスキーステック				
4 回	ドローイング(平面図)				
5 回	ドローイング(断面図)				
6 回	ドローイング(立面図)				
7 回	ドローイング(配置図・面積表) 課題提出				
8 回	課題2、趣味室のある専用住宅				
9 回	エスキーステック				
10 回	エスキーステック				
11 回	ドローイング(平面図)				
12 回	ドローイング(断面図、立面図)				
13 回	ドローイング(配置図・面積表)				
14 回	ドローイング(床伏図)				
15 回	ドローイング(短計図) 課題提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	基礎製図、設計製図Ⅰに引き続き、より地域性や公共性の高い建築物の課題を取り上げ、環境の一部として建築を捉えることを目的とする。				
3. 達成目標	建築は単体として存在するのではなく、まちづくりの一環として成り立つことを知り、そのより良い解を導き出すための手法が身に付くこと。				
4. 授業時間外に必要な学修	身近な公共建築物を訪れ、実際の活動状況を知る。また課題地の周辺を、様々な時間帯、曜日、時期などを変えてリサーチすること。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション 1日課題				
2 回	課題1①				
3 回	課題1②				
4 回	課題A 課題説明・リサーチ				
5 回	課題A エスキース① 平面計画				
6 回	課題A エスキース② 立面・断面計画				
7 回	課題A エスキース③ プレゼン計画				
8 回	課題A 発表会				
9 回	課題B 課題説明・ブロックプラン				
10 回	課題B エスキース① 平面計画				
11 回	課題B エスキース② 立面・断面計画				
12 回	課題B エスキース③ プレゼン計画				
13 回	課題B ドローイング				
14 回	課題B 発表会				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	設計製図Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	高木 宣徳 実務経験：建設会社勤務				
2. 授業目的	二級建築士の製図試験に備え、与えられた諸条件を正確に理解し、設計できるようにする。				
3. 達成目標	二級建築士製図試験の概要を把握し、時間内での作図を完成させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	課題の内容を十分に把握するため、問題文から計画のポイントを読み取る練習をする。				
5. テキスト	自作プリント				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	課題の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	二級建築士の設計製図についてガイダンス、木造の構造				
2 回	課題1 図面トレース (専用住宅) (1)、伏図の考え方				
3 回	課題1 図面トレース (専用住宅) (2)、詳細図の見本				
4 回	課題1 図面トレース (専用住宅) (3)、トレース図面を提出。				
5 回	課題2 (老人同居住宅) プラン (1)、エスキスの考え方				
6 回	課題2 (老人同居住宅) プラン (2)、伏図のエスキス				
7 回	課題2 (老人同居住宅) 作図 (3)				
8 回	課題2 (老人同居住宅) 作図 (4)、完成作図を提出。				
9 回	課題3 (店舗付き住宅) プラン (1)、課題説明				
10 回	課題3 (店舗付き住宅) プラン (2)				
11 回	課題3 (店舗付き住宅) プラン (3)、エスキス図面のみ提出。				
12 回	試験用課題 (1)、課題説明				
13 回	試験用課題 (2)				
14 回	試験用課題 (3)				
15 回	期末テスト				
備考					

## 講義内容

授業科目	卒業設計				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	実習	4単位
1. 担当者	湯浅 康生 実務経験：建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	これまで学んだ様々な知識を集大成させながら、個々の建築に対する思いをより自由度と完成度の高い作品として結晶させることを目的とする。				
3. 達成目標	しっかりとしたりサーチに基づいてテーマやプログラムを設定し、一つの解としての建築の姿を導き出せるとともに、これからの継続的テーマを見つけること。				
4. 授業時間外に必要な学修	設定した土地の歴史や環境・現況を丁寧に調べ、その場所の持つ特性や特徴をしっかりと把握すること。関連する建築の実例やデータを根気よく収集すること。				
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	複数回設定する発表会の評価と最終的な提出作品を総合的に判断して評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	オリエンテーション テーマの決定				
2 回	資料収集				
3 回	発表会① テーマと構想案				
4 回	エスキース① 敷地のブロックプラン				
5 回	エスキース② 建物のブロックプラン				
6 回	エスキース③ 平面計画 (1)				
7 回	エスキース④ 平面計画 (2)				
8 回	エスキース⑤ 断面・立面計画				
9 回	発表会② 中間発表				
10 回	ドローイング①				
11 回	ドローイング②				
12 回	ドローイング③				
13 回	模型制作・プレゼン計画				
14 回	発表会③ 最終プレゼンテーション				
15 回					
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1 年次 (前期)	必修	実習	2 単位
1. 担当者	福田 摩弥子 実務経験：工務店勤務・建築設計事務所勤務				
2. 授業目的	建築設計において CAD の使用は避けられない。より早くより正確でよりわかりやすく美しい図面を作成することは重要な技術である。その技術取得のための基礎的な手法を学ぶ。				
3. 達成目標	建築 CAD の基本的な操作方法を理解し、基本的な建築図面の製図ができるようになること。				
4. 授業時間外に必要な学修	なるべく CAD を使用してみる。特に実習後の復習が上達を早める。建築に関する寸法の感覚を養うことも製図の技能を高める。				
5. テキスト	「やさしく学ぶ JWCAD ☆デラックス」(エクスナレッジ)				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習時間内に行う小テスト、提出課題の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	JW_CAD の基本操作① まずは使ってみる				
2 回	JW_CAD の基本操作② 詳しい使い方を学ぶ				
3 回	JW_CAD の基本操作③ 基礎的な使い方をマスターする				
4 回	JW_CAD の応用操作① 簡単な製図を試みる				
5 回	JW_CAD の応用操作② 少し難しい製図に挑戦する				
6 回	JW_CAD の応用操作③ 図面を完成させる				
7 回	トレース演習 RC 造① RC 造製図のテクニック基礎編				
8 回	トレース演習 RC 造② RC 造製図のテクニック応用編				
9 回	トレース実習 RC 造 RC 造の図面を完成させる				
10 回	トレース演習 木造① 木造製図のテクニック基礎編				
11 回	トレース演習 木造② 木造製図のテクニック応用編				
12 回	トレース実習 木造 木造の図面を完成させる				
13 回	トレース実践① より複雑な図面の製図に挑戦する				
14 回	トレース実践② 〃				
15 回	トレース実践③ 図面完成、提出				
備考					

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 II				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	1 年次 (後期)	必修	実習	2 単位
1. 担当者	福田 摩弥子 実務経験：工務店勤務・建築設計事務所勤務 高原 健一郎 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	将来さまざまな CAD の使用が想定されるため、より応用的な使用方法について理解する必要がある。CAD ができること、CAD による製図の考え方を学ぶ。				
3. 達成目標	建築 CAD の詳しい操作方法について学び、図面に必要な情報をわかりやすく正確に表現するための技術を習得する。後半の ARCHICAD ではモデリング操作を20分以内に完了させる。				
4. 授業時間外に必要な学修	CAD を使用して製図する機会を増やすこと。コンテスト応募などは非常によい機会となる。また著名な建築家や建築物の図面に多く触れること。優れた図面を模倣してみるなどが知識を深める。				
5. テキスト	「やさしく学ぶ JWCAD ☆デラックス」/エクスナレッジ 「ARCHICAD Magic vol.1」/グラフィソフト社				
6. 参考書					
7. 成績評価	実習時間内に行う小テスト、提出課題の評点に受講態度等を考慮して総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	JW_CAD 2.5 次元① 高さ指定の基礎				
2 回	JW_CAD 2.5 次元② 高さ指定の応用				
3 回	JW_CAD 2.5 次元③ 立面図の基礎				
4 回	JW_CAD 2.5 次元④ 立面図の応用				
5 回	製図実践① CAD を使用した設計計画				
6 回	製図実践② 平面図のテクニック				
7 回	製図実践③ 立面図のテクニック				
8 回	製図実践④ CAD を使用したパース制作				
9 回	製図実践⑤ プレゼンテーションのテクニック				
10 回	製図実践⑥ プレゼンテーション実習				
11 回	ARCHICAD の初歩的操作演習 (1) 教科書演習 (前半)				
12 回	ARCHICAD の初歩的操作演習 (2) 教科書演習 (後半)				
13 回	ARCHICAD の初歩的操作演習 (3) 操作速度向上のための練習				
14 回	ARCHICAD の初歩的操作演習 (4) 操作速度向上のための練習と確認テスト				
15 回	まとめ、課題提出				
備考	パソコンを所有している場合は、JWCAD、ARCHICAD 学生版のインストールを勧める。				

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 III				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(前期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	高原 健一郎 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	ARCHICAD の基本操作の学習と同時に、設計への適用法の初歩を課題制作を通して学ぶ。				
3. 達成目標	ARCHICAD の基本操作を習得し数階建ての建物を独力でモデリングできるようになること、また、レイアウトや印刷の手順を習得すること。				
4. 授業時間外に必要な学修	反復を通してしっかりと身につくので、積極的に自習すること。				
5. テキスト	ARCHICAD Magic vol.1 (グラフィソフト社)				
6. 参考書	CAD や BIM に関わる書籍やインターネットサイト、設計資料集成など設計における寸法データを得られる資料				
7. 成績評価	受講態度と提出物から総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	CAD 実習 II で学んだ初歩的操作の復習				
2 回	ARCHICAD による図面入力練習				
3 回	ARCHICAD による設計変更・修正の練習 (1)				
4 回	ARCHICAD による設計変更・修正の練習 (2)				
5 回	ARCHICAD による設計変更・修正の練習 (3)				
6 回	ARCHICAD による設計変更・修正の練習 (4)				
7 回	ARCHICAD による設計変更・修正の練習 (5)				
8 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (1)				
9 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (2)				
10 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (3)				
11 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (4)				
12 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (5)				
13 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (6)				
14 回	ARCHICAD の基本操作の学習 (7)				
15 回	まとめ、課題提出				
備考	パソコンを所有している場合は ARCHICAD 学生版のインストールを勧める。				

## 講義内容

授業科目	CAD 実習 IV				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次(後期)	必修	実習	2単位
1. 担当者	高原 健一郎 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	ARCHICAD の応用操作の学習と設計への適用法を課題制作と卒業設計を通して学ぶ。				
3. 達成目標	ARCHICAD でより高度なモデリングやレイアウトを作成できるようになると同時に、設計での円滑な利用を身につける。				
4. 授業時間外に必要な学修	積極的に ARCHICAD を練習すること。				
5. テキスト	ARCHICAD Magic vol.1 (グラフィソフト社)				
6. 参考書	CAD や BIM に関わる書籍やインターネットサイト、設計資料集成など設計における寸法データを得られる資料				
7. 成績評価	受講態度と提出物から総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	応用練習と敷地データの作り方の学習				
2 回	応用練習 (小規模な建築物・1) と卒業設計に必要な操作演習				
3 回	応用練習 (小規模な建築物・2) と卒業設計に必要な操作演習				
4 回	応用練習 (小規模な建築物・3) と卒業設計に必要な操作演習				
5 回	応用練習 (小規模な建築物・4) と卒業設計に必要な操作演習				
6 回	応用練習 (小規模な建築物・5) とプレゼンテーションシート作成の演習				
7 回	応用練習 (小規模な建築物・6) と卒業設計に必要な操作演習				
8 回	応用練習 (小規模な建築物・7) と卒業設計に必要な操作演習				
9 回	応用練習 (小規模な建築物・8) と卒業設計に必要な操作演習				
10 回	応用練習 (小規模な建築物・9) と卒業設計に必要な操作演習				
11 回	応用練習 (小規模な建築物・10) とプレゼンテーションシート作成の演習				
12 回	レンダリング、CG 表現、プレゼンテーションの練習				
13 回	レンダリング、CG 表現、プレゼンテーションの練習				
14 回	レンダリング、CG 表現、プレゼンテーションの練習				
15 回	まとめ、課題提出				
備考	パソコンを所有している場合は ARCHICAD 学生版のインストールを勧める。				

## 講義内容

授業科目	ワークショップⅢ（古民家再生論）				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	建築学科昼間部	2年次（前期）	必修	実習	1単位
1. 担当者	植村 徹 実務経験：建築設計事務所主宰				
2. 授業目的	民家は地域の風土や生活に根ざした住まいの知恵を背景として造られており、それらの再生と創造を通じ、日本人の住まい観や生活観、伝統の知恵と技術などの幅広い知識を理解する。				
3. 達成目標	古民家をはじめ既存建築物の再生現場や実例を見学し、再生の考え方や、伝統を生かしたこれからのデザインや建物の活用について学習する。				
4. 授業時間外に必要な学修					
5. テキスト	なし				
6. 参考書	なし				
7. 成績評価	レポート提出と、出席状況を総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1 回	}	オリエンテーション 古民家再生の意味について（集中講義） （再生の講座と町並み見学）			
2 回					
3 回					
4 回	}	児島の町並みと再生、または現場見学（集中講義） （倉敷市児島の再生事例の見学と講座）			
5 回					
6 回					
7 回	}	倉敷の町並みと再生、または現場見学（1）（集中講義） （倉敷市美観地区の再生事例の見学と講座）			
8 回					
9 回					
10 回	}	倉敷の町並みと再生、または現場見学（2）（集中講義） （倉敷市美観地区の再生事例の見学と講座）			
11 回					
12 回					
13 回	}	古民家の再生と、パナキュラーな建築（集中講義）			
14 回					
15 回					
備考					